

令和元年第三回鹿児島市議会定例会での発言の要旨

●市立3高校の募集定員と取組について

市内にある高校の中で、鹿児島市立の鹿児島商業高校と鹿児島女子高校の募集定員割れについて、これまでも本会議において指摘し、改善を要求してきました。改善が図られたものか改めていくつか質問させていただきました。



鹿児島女子高校

Q.令和2年度の定員に対する生徒数は？

A.商業高校国際経済科は40名に対し8名。女子高情報会計科は80名に対し50名

Q.現中学3年生の進路希望調査結果について、希望者数は？

A.商業高校280名に対し102名、女子高160名に対し63名



鹿児島商業高校校章

Q.市立3高校に対する責務があると感じるが、出願者数増加に対する取組みは？

A.検討委員会を開催するとともに、今年度新たに専門部会を設置した

Q.商業高校と女子高校の定員割れが続く学科の再編についての見解は？

A.中学生や保護者等のニーズなどを踏まえ、県と協議し学科の在り方を検討していく



要チェック!! CHECK!

(たいすけの所感) 鹿児島商業高校や鹿児島女子高校の募集定員割れの問題については、議員になった当初から質問。生徒・保護者、先生方の意見や他都市の学校の取組みを紹介し、様々な提案をしてきましたが改善されておらず。動かない大人を乗り越えて、各校で頑張っている子供たちが学校を盛り上げてくれている現状を指摘し、学校環境の改善や活性化を強く要望しました。

●都市計画税の課税、使途状況について



財政運営の勉強をする中で、今回着目したのが都市計画税。都市計画税は昭和31年に創設され、受益者負担の観点から現在本市においても、市街化区域内に所在する土地及び家屋に対し、固定資産税とともに徴収されています。その都市計画税による税金は年間約70億円も。この税金の使途に偏りがあることや、ましてや徴収していないところの地域に使われている現状を指摘。

ちなみに、伊敷地域においては徴収されているのに、ここ数十年の間で事業費0円。今後の本市のまちづくりの発展と市民の公平公正という観点から、一刻も早く時代にマッチした都市計画税の徴収制度を確立するように強く要望しました。



要チェック!! CHECK!

このほかにも、増え続けている小中学校における不登校の児童生徒に対する取組みや今後の関わり方等を質問し、児童生徒にかぎらず、保護者が学べる環境の充実を要望しました。又、本市の都市計画道路が50年以上も進捗がない路線が7路線もあることを指摘。九州縦貫自動車道の結節点となっている伊敷地域の交通混雑等の現状を紹介し、長期間にわたり未整備となっている路線は直ちに直視し、伊敷地域の交通混雑解消も含め、社会情勢の変化と本市の将来像にあった都市計画になるよう要望しました。

■米山たいすけプロフィール■ ご要望・ご相談は遠慮なく 米山たいすけまで 携帯090-4345-1551 E-mail: mail@y-taisuke.com

■現在とこれまでの主な役職、活動

- 鹿児島市立伊敷中学校 PTA 会長
- 玉江校区あいご会 会長
- 玉江ソフトボール少年団 代表監督
- 下伊敷消防分団
- 児童通学保護員
- 鹿児島保護区保護司 等

□家族構成 (6人家族) 太助(43歳)・(妻) 恵(43歳) 令和3.31 現在
(長男) 祐翔(19歳)・(長女) 心優(17歳)・(次女) 心暖(13歳)・(次男) 大翔(9歳)
ゆうと みゆ このん やまと

□経歴
1977年6月 鹿児島市下伊敷に生まれる
1984年3月 玉里善き牧者幼稚園卒園
1990年3月 鹿児島市立玉江小学校卒業
1993年3月 鹿児島市立伊敷中学校卒業
1996年3月 鹿児島県立鹿児島工業高校建設技術系卒業、野球部所属
1996年4月 鹿児島市内の建設会社に就職
2011年6月 様々な現場を経験し退社
2012年4月 鹿児島市議会議員選挙初当選
2016年4月 鹿児島市議会議員選挙二期目当選
好きな言葉 [弱気は最大の敵]

米山たいすけの想いや行動がわかる!! 市議会議員米山たいすけ 検索 毎日更新中!!

子育て世代 責任世代

米山たいすけ

鹿児島市議会議員

【令和2年度】 建設消防委員会 委員長
議会運営委員会

市民連合 鹿児島市 下町11-1 TEL 099-224-7353

今でも変わらぬ 熱い心と行動力!!

令和3年 第一回定例会にて新年度予算決定!!

『一般会計2,662億円』(前年度比110億円減)

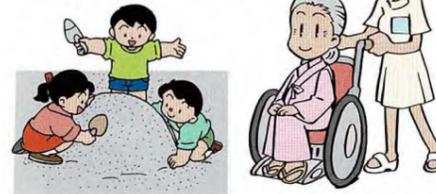


令和3年度は、これまで取組んできた109の事業の休止が決定。昨年度に引き続き、様々な事で制約を受け、中々先が見えない状況ではありますが、新型コロナワクチン接種事業も開始され、徐々に新たな明るい未来へ前進していることを信じ、一緒になって乗り越えて行きましょう。

市民一人当たりの使い道はどうなってるの!?

予算額2,662億円は、一人当たり(約44.2万円)です。

●子育て支援や高齢者の医療など福祉の充実
約22万1千円



●教育の振興に
約2万9千円



●消防・救急に
約1万円

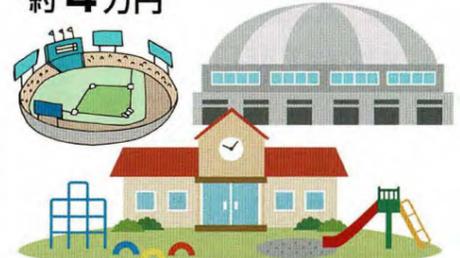


具体的な使い道は!?

●環境や衛生の向上のために
約3万7千円



●道路や公園、住宅などの整備に
約4万円



●商業・観光・農林水産業の振興に
約1万7千円



●市債の返済に
約4万8千円

●市の運営などに
約4万円



鹿児島市の主な新規・継続事業

新 妊産婦寄り添い支援事業

(91,920千円)

新型コロナウイルス感染症の対策として、感染した妊産婦へ電話や訪問等による相談や分娩前のPCR検査の費用助成など、不安を抱える妊産婦を支援します。



新 不妊に悩む方への特定治療支援事業

(398,756千円)

特定不妊治療に要する費用の助成措置を大幅に拡充し、経済的負担の軽減を図ります。

新 保育士確保関連事業

(2,100千円)

- ・保育士資格取得支援事業 (2,672千円)
- ・関係機関等と連携した保育士確保事業

新 かごしま移住支援・プロモーション事業

(10,257千円)

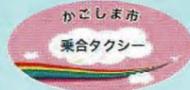
本市への移住を検討している方を対象に移住体験ツアーを実施するなど、移住を促進します。



新 路線バス廃止地域支援事業

(7,083千円)

令和2年4月に民間路線バスが廃止された地域において、地域住民の交通手段を確保するため、乗合タクシーを運行します。



新 まちなか図書館(仮称)整備事業

(1,648,132千円)[一部②2月補正]

令和4年春の供用開始に向け、千日町1・4番街区再開発ビル内のまちなか図書館(仮称)の什器等の設置工事やシステム関係の整備等を進めます。



新 おくやみコーナー設置事業

(8,041千円)

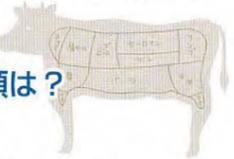
死亡に伴う各種手続の専用窓口(おくやみコーナー)を本庁舎内に設置し、市民サービスの向上を図ります。

令和二年第三回鹿児島市議会定例会での発言の要旨

●食肉センターの運営について

みなさんは、食肉センターの存在をご存知ですか?昭和の前半には下伊敷に伊敷村営の屠場(牛や豚を解体するところ)があり、鹿児島市との合併時に経営権が本市に。現在は下福元町に食肉センターとして操業。

しかし、平成15年に本市直営から民間事業者の運営に移管。そんな歴史なんですけど、私が議員になってからも毎年のように、食肉センターの施設整備に何千万円〜何億円の税金が投入されていることに疑問を感じたので質問しました。



Q.本市から民間事業者へ移管後に本市が施設整備等に費やした経費の総額は?

A.本市が令和元年度までの17年間で負担した総額は約24億7千万円

『この答弁に驚き。この金額をどう感じますか?そこで市民への費用対効果の観点から』

Q.令和元年度における本市域内(畜産農家)からの搬入数と割合は?

A.牛が453頭、3.2%、豚が586頭、0.3%

Q.鹿児島市民への食肉供給のうち、食肉センターで処理された割合は?

A.食料需給表に基づき試算すると、牛で11.4%、豚が20.6%と推計される



(たいすけの所感) 食肉センターの施設整備等に税金を充てる目的は、市民への安心安全な食肉供給ということだが、明らかになった数字を見るかぎりでは果たされておらず、市民への費用対効果という観点から見ても疑問を感じます。そこで他都市においては、第3セクター化による運営に移管し、当初だけの出資で大きな効果を挙げているところを明らかにして、第3セクター化も視野に提案しました。

●すこやか入浴事業の利用状況と新たな施策について

本市では、平成6年から高齢者の健康増進と生きがいづくりを促進するという目的ですこやか入浴事業を実施。内容は、公衆浴場の料金は420円ですが、100円で入浴(年間30回)できるというもの。各地域の高齢者の方々の話をお伺いする中で、利用状況やニーズに疑問を覚えたので質問しました。

Q.すこやか入浴証の交付者数と年間平均利用回数(平成30年度)は?

A.交付者数は10万4,556人で一人あたりの年間平均利用回数は5.46回

Q.1回も利用していない人数とその割合(平成30年度)は?

A.1回も利用しなかった方は6万8,067人で全体に占める割合は約7割

『利用状況に対する見解や高齢者福祉に対する新たな施策について見解を尋ねてみました。』

Q.公衆浴場の減少も踏まえ、利用状況に対する見解と要因は?

A.公衆浴場がない地域がある。日常的に利用する方が少ない。周知広報が課題。

Q.健康増進と生きがいづくりの促進に繋がる施策(タクシー乗車の補助)に取り組むべきでは?

A.新たな取組について各面から検討していく



(たいすけの所感) 高齢者の健康増進と生きがいづくりには、自宅から出ることも人と交流することが一番と考えます。温泉入浴に限らず、入浴しない人にはタクシー乗車の補助等、申請時に選択していただき、それぞれの事情にあった健康増進と生きがいづくりに繋がる事業にすべきと提案しました。

米山たいすけ議会活動報告

おかげさまで三期目を迎えました。これからも変わらぬ『熱い心と行動力』で市民の皆様のよりよい生活の実現を目指し、毎日を全力投球で力の限り頑張ります。今後とも、たくさんのご要望やご意見を賜りますようお願い申し上げます。

元年度の観光産業企業委員会の委員長に引き続き、令和二年度は建設消防委員会の委員長を務めさせていただき、おかげさまで、委員会運営や各種行事において多くの経験を積まさせていただきました。又、第三回定例会において個人質疑に登壇し、現在コロナ禍で非日常であるからこそ、これまでの施策について改めて検証し、今後、迎える新たな明るい日常に向けて準備を進めておく貴重な時期であるという観点から各種質問をさせていただきました。



『伊敷地域の現状を写真パネルを使い紹介』